

船舶事故等調査報告書

平成26年3月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013門第156号
事故等種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成25年10月17日 07時20分ごろ
発生場所	関門港響新港区 福岡県北九州市所在の響新港東1号防波堤西灯台から真方位194° 2,450m付近 (概位 北緯33° 55.9′ 東経130° 46.1′)
事故等調査の経過	平成25年11月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第十八栄福丸、199トン
船舶番号、船舶所有者等	133475、榊本海運有限会社
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 左舷ビルジ外板に亀裂 岸壁 なし
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、空倉で船首約0.8m、船尾約2.4mの喫水により、関門港響新港区の響灘西3号岸壁に出船左舷着けするために右回頭しながら着岸作業中、船長が、行きあしが過大であると感じていたところ、平成25年10月17日07時20分ごろ左舷外板が岸壁防舷材に接触した。 船長は、損傷がなさそうなので、積荷役を終了後、次港に向けて航行中、18日07時30分ごろ、本船が左舷側に僅かに傾斜していること、及び左舷5番バラスタंकへ浸水していることを認め、バラスタंक水約2tを排出後、同タンクに入って確認したところ、ビルジ外板に亀裂を発見した。 本船は、22日に亀裂部の水中溶接による修理が行われた。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の末期、潮高 約120cm
その他の事項	海図W1267によれば、本事故発生場所付近の水深は約10m、底質は泥及び砂である。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、関門港響新港区において、響灘西3号岸壁に出船左舷着け

	<p>するために右回頭しながら着岸作業中、行きあしがあったことから、左舷外板が岸壁防舷材に接触した際、左舷ビルジ外板が岸壁に衝突した可能性があると考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、関門港響新港区において、響灘西3号岸壁に出船左舷着けするために右回頭しながら着岸作業中、行きあしがあったため、左舷ビルジ外板が岸壁に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着岸する際は、早めに後進にかけるなどして十分に行きあしを減じること。</li> </ul>